

国語 第4学年 つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「友情のかべ新聞（第4学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアやグループの組み方。

二、既習のこと。第3学年と第4学年でこれまでに読んだ物語と、「場面の移り変わり」「気持ちの変化」「叙述を基に考える」をどこまで学習してきたか。謎解きの本を読んだことがあるか。

三、この学級の子どもの実態。読むのが苦手な子、書くのが苦手な子、発言が偏る、などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言と、評価規準の文末は変えない。

教科書の本文や台詞、作例の文は引用しない。教材名と人物の呼び方だけを使い、本文を入れる所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

手がかりの叙述は、使う教科書の本文から先生が選ぶ前提で、カードの枚数と配り方だけを学級に合わせる。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 「つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう」 教材名「友情のかべ新聞（はやみねかおる）」

2 単元の目標

幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く（(3)オ）。登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、文章を読んで感じたことや考えたことを共有して、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる（C(1)エ・カ）。叙述と叙述を結び付けて読み、おもしろいと思ったことを進んで話し合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（(3)オ）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ）

〔思考・判断・表現〕②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（C(1)カ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで、叙述と叙述を結び付けながら登場人物の関係の変化を想像し、学習の見通しをもって、おもしろいと思ったことを話し合おうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本教材は、語り手の「ぼく」が、いつも反対し合っていた東君と西君の様子が急に変わったことに気付き、二

人の行動や様子の叙述を手がかりに、その訳を推理していく物語である。手がかりは物語のあちこちに置かれていて、その場面だけを読んでも訳は分からず、前の場面の叙述と後の場面の叙述を結び付けた時に意味が分かる。学習指導要領第3学年及び第4学年のC(1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」を、謎を解くおもしろさと一緒に働かせられる教材である。謎解きのある物語は学校図書館で並行して読む本を集めやすく、(3)オの「幅広く読書に親しみ」とも結び付く。光村図書出版の教科書では、同じ下巻の初めに「ごんぎつね」があり、そこで学んだ、気持ちの変化を場面と結び付けて読む力を、人物どうしの関係の変化を読むことに広げる位置にある。第5学年の、人物像や物語の全体像を想像する学習（〔第5学年及び第6学年〕C(1)エ）へ進む前の段階でもある。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、謎の答えを当てることを目的にせず、「どの叙述とどの叙述を結び付けたか」を必ず言わせる。手がかりの叙述を書き写したカードを並べ替えて結び付ける活動を、本時の中心に置く。次に、結び付けた結果が分かれた時は、叙述を根拠にしていればどちらも認め、話し合いで考えの違いに気付かせる（C(1)カ）。そして、並行して読む謎解きの本を単元の初めに選ばせ、教材で見付けた読み方を自分の本でも使わせる（(3)オ、第3の1(6)）。単元の終わりに書く文章は、おもしろいと思ったところ・結び付けた二つ以上の叙述・その理由の三つがそろっている物を「おおむね満足できる」状況、三つ以上の場面の叙述を結び付けている物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全8時間）

第1次 第1時：○範読を聞き、初発の感想（おもしろかった所・不思議に思った所）を書く。○学習課題「物語のおもしろいところを、叙述と叙述を結び付けて見付け、話し合おう」と学習の計画を確かめる。○謎解きのある物語の中から、並行して読む本を選ぶ。評価：態①（初発の感想・観察）

第2次 第2時：○登場人物（「ぼく」・東君・西君・中井先生）の性格と、物語の初めの東君と西君の関係を、行動の叙述から確かめる。

第2次 第3時：○中井先生の作戦の後、東君と西君の様子が場面ごとにどう変わったかを「様子の変化の表」に書き出し、「ぼく」がおかしいと感じた所に印を付ける。

第2次 第4時（本時）：○「ぼく」が推理の手がかりにした叙述を集め、前の場面の叙述と結び付けて、東君と西君の関係の変化を想像する。評価：思①（ワークシート・ノート）

第2次 第5時：○おもしろいと思ったところを一つ選び、結び付けた叙述と理由を挙げて文章に書く。評価：思①（文章）

第3次 第6時：○書いた文章をグループで読み合い、選んだところや理由の同じ所と違う所を話し合う。評価：思②（付箋・発言）

第3次 第7時：○並行して読んだ本について、謎と手がかりの結び付きのおもしろいところを紹介し合う。評価：知①（紹介カード・発言）

第3次 第8時：○全体で、「東君と西君は本当に仲良くなったといえるか」について、叙述を挙げて考えを話し合う。○学習を振り返り、叙述を結び付けて読むよさを書く。評価：思②（発言）態①（振り返り）

6 本時の指導（4／8）

（1）本時の目標

「ぼく」が推理の手がかりにした東君と西君の行動や様子の叙述を、前の場面の叙述と結び付けて、二人の関係の変化を具体的に想像することができる。（C(1)エ）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：1 前時の「様子の変化の表」で、中井先生の作戦の前と後の、東君と西君の様子を確かめる。

2 本時の問いをつかむ。

○「『ぼく』は、どの叙述とどの叙述を結び付けて、二人の様子が変わった訳を考えたのでしょうか」

【めあて】「ぼく」が見付けた手がかりを結び付けて、東君と西君の関係がどう変わったかを考えよう。

予想される児童の反応：・作戦の前は、何でも反対し合っていた。

・作戦の後、急に仲良くしているように見える。

・「ぼく」は、二人の様子がおかしいと思っている。

指導上の留意点：・前時の表を黒板の右側に貼り、「ぼく」が印を付けた所を示す。

・本時は、推理の答えを当てるのではなく、叙述を結び付けて考えることがめあてだと伝える。

【展開】

学習活動：3 一人で読み、「ぼく」が手がかりにした二人の行動や様子の叙述に線を引き、手がかりカード

に書き写す。

○「『ぼく』がおかしいと思った二人の行動は、どこに書いてありますか」

4 手がかりカードを、前の場面の叙述と結び付けて並べる。

○「この手がかりは、前のどの場面のどの叙述と結び付きますか。結び付けると何が分かりますか」

5 ペアで、結び付けたカードと考えを説明し合う。

6 全体で、結び付けた叙述と考えを発表し、黒板の図に書き足す。

○「二人の関係は、作戦の前と比べて、どう変わったといえますか」

予想される児童の反応：・二人が、いつもと違う物の選び方をしている。

・二人が同じ時に、同じことを言っている。

・前の場面で二人が好きだと書かれていた物と結び付けると、わざとそうしているように思える。

・二人は何かを一緒に隠しているから、一緒にいるのだと思う。

・隠しごとを守るために一緒にいるだけで、まだ仲良くはなっていない。

・一緒に困ったことを乗り越えたので、前より相手のことが分かるようになった。

・本当に仲良くなったかは、最後の場面まで読まない決められない。

指導上の留意点：・手がかりの叙述と台詞は、使う教科書から先生がカードに書き入れて用意する（本文はここに載せない）。

・線を引けない子には、「ぼく」がおかしいと思った場面を先生が一つ示し、その場面の中で二人がしたことを探させる。

・カードを結び付けられない子には、表の前の場面の欄を指して「前はどうしていましたか」と聞く。

・「怪しい」「変だ」で終わる発言には、「どの叙述と、どの叙述から」と返す。

・関係の変化について考えが分かれたら、どちらも叙述を根拠にしていれば認め、黒板の左側に並べて残す。

・早く終わった子には、「ぼく」の推理に入っていない手がかりが他にないかを探させる。

【まとめ】

学習活動：7 二人の関係の変化を、結び付けた叙述を挙げてノートに書く。

（型）「作戦の前、二人は…。…の場面の…という叙述と、…の場面の…という叙述を結び付けると、…と分かる。だから、二人の関係は…に変わったと考える」

8 二人ほどが読み上げる。

9 振り返りを書く。

指導上の留意点：・振り返りは「叙述を結び付けて考えたこと」と「友達の考えで気付いたこと」の二つの観点で書かせる。

・次の時間は、おもしろいと思ったところを文章に書くことを伝える。

評価：思① 登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（ワークシート・ノート）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に日付・題名・めあて。その左に前時の「様子の変化の表」（中井先生の作戦の前と後で上下二段に分け、東君と西君を並べる）。中央に手がかりカード（先生が教科書から書き写した物）を貼り、前の場面のカードと矢印で結んで、矢印の横に分かったことを書く。その左に「二人の関係は、どう変わったか」の問いと、子どもの考え（まだ仲良くない・前より分かり合った・最後まで読まない決められない）を、根拠の場面の番号と一緒に並べる。左端にまとめの文の型と振り返りの観点二つ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

